

文型と文の骨組み-講義

1 導入

この講義の核心は、英訳で文が崩れる主因は、単語が足りないことより、主節の骨格を先に立てていないことにある、という点である。日本語では主語が省略されやすく、修飾句や前置された情報が長く続いても意味が通る。しかし英語では、まず「誰がどうする」の主節を1本立て、その後に条件・理由・場所・時間を付加する順序で組み立てるほうが安定する。

2 中心課題

なぜ日本語では自然に見える文が、英語へ移したとたんに主語欠落や節崩壊を起こすのか。どうすれば単語を並べる前に、英文の主節を安定して設計できるのか。

3 用語

- 主節: 文の中心となる「誰がどうする」の骨格
- 骨格: 主語と動詞を核として残した最小の文構造
- 修飾情報: 時間・場所・理由・条件など、主節に追加される情報
- 骨格抽出: 日本語の文から、まず主節だけを取り出して英文化する手順

4 方針

英文を作るときは、次の順序を固定する。

- 日本語の文で「何が言いたい中心か」を一文で言い換える
- その中心から主語と動詞を決め、主節を1本立てる
- 目的語や補語を置いて、最小の英文を完成させる
- その後に時間・場所・理由・条件を必要な順に付加する

5 直感的な説明

日本語では、「昨日の会議で出た意見を踏まえると、この計画は再検討が必要だ」のように、前置された情報が多くても読める。英語でこれをそのまま左から運ぶと、会議・意見・計画のどれを主語にするかが曖昧になりやすい。

この混乱を避けるには、まず「この文でいちばん言いたいことは、計画に再検討が必要だ、という点だ」と固定する。すると骨格は The plan needs to be reconsidered. のように先に作れる。その後で In light of the comments raised at yesterday's meeting, のような情報を足せばよい。

Display

日本語

昨日の会議で出た意見を踏まえると、この計画は再検討が必要だ。

骨格

The plan needs to be reconsidered.

ここで重要なのは、最初から全部を英語へ移そうとしないことである。まず主節を固定すると、その後の修飾は置き場所の問題へ還元される。

6 厳密な説明

6.1 1. 英語の文では主節が先に必要である

英文の基本は、主語と動詞による節を立てることである。時間句や理由句や前置詞句は、それだけでは文の中心にならない。したがって、翻訳の最初に探すべきなのは「どの節が主節か」である。

6.2 2. 骨格抽出では修飾情報を一度外す

日本語の文を見たとき、時間・場所・理由・条件・引用・補足は、いったん括弧に入れるつもりで外す。して残った部分から「主語 + 動詞 + 必要なら目的語」を抽出する。この手順により、主語欠落や動詞不在のCLSを減らせる。

6.3 3. 日本語の主題と英語の主語は一致しないことがある

日本語で文頭に置かれた語句が、そのまま英語の主語になるとは限らない。たとえば「この調査からわかることは、地域差が依然として大きいことだ」では、英語の主語を what 節にするより、This survey shows that regional differences remain large. のように主節を先に立てるほうが安定しやすい。

6.4 4. 主節を固定してから従属情報を付加する

骨格が立ったら、残しておいた修飾情報を戻す。このとき、情報の種類に応じて位置を決める。

- 時間・場所: 文末または文頭
- 理由・条件: 接続詞つきの従属節として追加
- 補足的情報: 関係節や分詞構文は Ch2 / Ch10 で扱う

したがって、Ch1 では「全部を一文で言う」ことより、「主節を壊さない」ことを優先する。

7 最小の具体例

7.1 例 1: 骨格抽出

日本語: 十分な準備がなかったため、この計画は予定通りには進まなかった。

Display

骨格

The plan did not proceed as scheduled.

Correct

Because there was not enough preparation, the plan did not proceed as scheduled.

Incorrect

Because not enough preparation, did not proceed this plan as scheduled.

[CLS] 主語と動詞の骨格が立つ前に理由句を直訳して崩している。

7.2 例 2: 主語の選択

日本語: この結果から、地域差がまだ大きいことがわかる。

Correct

This result shows that regional differences are still large.

Incorrect

From this result, that regional differences are still large is understood.

[CLS] 主節の立て方が不自然である。

8 別の見方

8.1 骨格を設計図として見る見方

骨格は、完成文の縮小版ではなく設計図である。設計図の段階で主語と動詞が定まっていれば、その後には形容詞句・前置詞句・従属節を増築しても崩れにくい。この見方を採ると、CLSは「文法規則の暗記」ではなく「設計順序の管理」として理解できる。

8.2 日本語の主題構造と英語の主語述語構造の差から見る見方

CLS が起こる根には、日本語と英語の文の作り方の違いがある。日本語では「～は」で始まる主題にどんな情報でも置けるため、状況・場所・理由などが文頭を占めても自然に読める。英語は主語-動詞の組みが文の中核を担うため、文頭に副詞句や理由句を置いた後も、必ず実質的な主語+動詞が続かなければならない。この違いを知ると、CLS は「文法規則の違反」ではなく「二つの言語の文の設計の差から来るズレ」として理解できる。したがって修正の方向は、主語と動詞が表面に現われているかどうかを確認することに帰着する。

9 見分け方

- 日本語の文頭に長い修飾句があるときは、まず骨格抽出を行う
- 英訳しようとする主語が定まらない場合は、主節が見えていない可能性が高い
- 単語を足しているのに文が良くならない場合は、COL や PRP の前に CLS を疑う

10 どこまで成り立つか

この講義の手順は、単文や比較的短い説明文には強い。しかし、関係節・名詞節・分詞構文が重なる複文では、Ch2 と Ch10 の知識が必要になる。また、学術文体では主語の選択自体が REG と結び付くため、内容によっては Ch13 まで視野に入れる必要がある。

11 最終形

Display

骨格抽出の基本手順

1. 主節の中心意味を固定する
2. 主語と動詞を決める
3. 最小の英文を完成させる
4. 修飾情報を後付けする

12 一言でいうと

英文の骨格を安定させる鍵は、最初から全部を訳そうとせず、まず主節を1本立てることである。

13 かんれん 関連リンク

→ 講義 **英語ポータル** lecture english overview
<https://study.bem130.com/lecture/english/overview/英語ポータル-講義/>

→ 問題演習 **骨格化ドリル** exercise english clause
<https://study.bem130.com/exercise/english/clause/骨格化ドリル-問題演習/>

→ 講義 **関係詞と節の基本** lecture english clause
<https://study.bem130.com/lecture/english/clause/関係詞と節の基本-講義/>

→ 定石集 **誤りタグ体系** reference english error-taxonomy
<https://study.bem130.com/reference/english/error-taxonomy/誤りタグ体系-定石集/>

→ 講義 **コロケーション基礎** lecture english collocation
<https://study.bem130.com/lecture/english/collocation/コロケーション基礎-講義/>